

学校長挨拶

学校長 安藤 敏彦

いよいよ少子化が岐阜県の高等学校教育に大きな影響を与えようとしています。県教委作成の資料によれば、美濃地区の中学校卒業予定者数は平成二十八年度より緩やかに減少し、十年後の平成三十八年度に本年度比約二百七十人減少するとの数字が公表されています。

このような将来状況を見据えて、県教委においても「第二次教育ビジョン（H26～30）」の策定を進めており、現在改革に向けての議論が鋭意続けられています。改革の柱は次の3つで、高等学校については「中長期的な学校改革」が重点とされています。

【重点政策】

- ① 学力向上を核とした義務教育の改革
- ② 中長期的な将来を見据えた高校の改革
- ③ 卒業後を見据えた特別支援学校の改革

これに関わって、六月上旬に三千万円の予算規模で実施される「県立高校改革リーダーリングプロジェクト推進事業」の採択校発表があり、関高校を含めた十校が「教育改革重点推進校」（通称リーダーリングハイスクール）として指定されました。

関高校の提案は、「地域社会の期待と信頼に応える学校づくり」として併設型中高一貫校の設立を提案するもので、そのための調査・研究が認められた形となっています。具体的な内容の紹介は避けませんが、ここで提案したのは「グローバル」な人材育成」ということ、つまり「グローバルな視点を持った生徒を地域の学校が育てる」というのがその理念であります。

内容的には「真に使える英語力の育成」と「習熟度別・少人数指導による学力向上」をキーワードとしたもので、奇しくも国の教育再生会議の提言と軌を一にしたものとなっています。特にこの「グローバル」な人材育成」という理念は、今後の少子化社会における地域の在り方を考える上で“なくてはならない重要な理念”だと思っています。

いずれにしても、時代の大きな転換点にあたる今、戸惑うことが多い社会状況ですが、時代の行く末をしっかりと見極めながら学校経営にあたるのが肝要です。で、広い視野をもって誤りなく進んでゆけたらと考えています。つきましては、母校関高校の今後にご支援いただきますことを切にお願いする次第であります。

